【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和3年10月21日(2021.10.21)

【公表番号】特表2020-535945(P2020-535945A)
【公表日】令和2年12月10日(2020.12.10)
【年通号数】公開・登録公報2020-050
【出願番号】特願2020-540674(P2020-540674)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/16　(2006.01)
Ｇ０２Ｃ　7/06　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　5/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/16
Ｇ０２Ｃ　7/06
Ｇ０２Ｂ　5/18

【手続補正書】
【提出日】令和3年9月8日(2021.9.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
一対の多焦点眼内インプラントから成るアセンブリであって、
前記一対の多焦点眼内インプラントはそれぞれ、直径４ｍｍ以下、好ましくは３ｍｍ以下の瞳孔に関して、着用者の遠視力（ＶＬ）に対応するピーク（Ａ／ＶＬ；Ｂ／ＶＬ）と、中間視力（ＶＩ）と近見視力（ＶＰ）との間で広がる、すなわち中間視力（ＶＩ）と近見視力（ＶＰ）との間で不連続とならない非対称ピーク（Ａ／ＰＥ；Ｂ／ＰＥ）とを有するＴＦＭＴＦ（スルーフォーカス変調伝達関数）曲線を有し、
前記一対の多焦点眼内インプラントの一方に関して、ＴＦＭＴＦ値は、近見視力（ＶＰ）よりも中間視力（ＶＩ）において大きいことと、
前記一対の多焦点眼内インプラントの他方に関して、前記ＴＦＭＴＦ値は、中間視力（ＶＩ）よりも近見視力（ＶＰ）において大きいことと、
前記一対の多焦点眼内インプラントの前記一方の前記非対称ピーク（Ａ／ＰＥ）の立ち上がりエッジ（ＦＡ）が、絶対値として、立ち下がりエッジ（ＦＤ）よりも大きい平均勾配を有する一方で、前記一対の多焦点眼内インプラントの前記他方の前記非対称ピーク（Ｂ／ＰＥ）の立ち上がりエッジ（ＦＡ）は、絶対値として、立ち下がりエッジ（ＦＤ）よりも小さい平均勾配を有することと
を特徴とするアセンブリ。
【請求項２】
前記非対称ピーク（Ａ／ＰＥ；Ｂ／ＰＥ）の重なりは、少なくとも０．１０のＴＦＭＴＦ値に対応することを特徴とする請求項１に記載のアセンブリ。
【請求項３】
前記非対称ピーク（Ａ／ＰＥ；Ｂ／ＰＥ）の前記重なりは、少なくとも０．１５のＴＦＭＴＦ値に対応することを特徴とする請求項２に記載のアセンブリ。
【請求項４】
前記非対称ピーク（Ａ／ＰＥ；Ｂ／ＰＥ）の各々の頂点は、少なくとも０．１５のＴＦ

ＭＴＦ値を有することを特徴とする請求項３に記載のアセンブリ。
【請求項５】
遠視力（ＶＬ）に対応する前記ピーク（Ａ／ＶＬ；Ｂ／ＶＬ）の頂点におけるそれぞれのＴＦＭＴＦ値は、３０％未満の差を有することを特徴とする請求項１から４のいずれか１項に記載のアセンブリ。